

科目名	特別ニーズ保育・教育Ⅱ				担当	大塚 美奈子		
形態	演習	単位数	1	開講時期	2年前期	実務経験	教員として特別支援学校に勤務経験有	
必修	幼免：必修 保育士：必修				ナンバリング	Y3305	DPとの関連	3
授業概要	「特別ニーズ保育・教育Ⅰ」に引き続き、障害のある子どもの保育方法を学ぶ。個別の指導計画と個別の教育支援計画の意義や作成の仕方、記録の取り方や保育の評価について、個別のワークやグループワークを通しながら学ぶ。また、実際の保育場面で重要な生活や遊びの援助、保護者支援についても同様に実技を取り入れたグループワーク等を通しながら考える。具体的なイメージが持ちやすいように視覚教材も用いる。							
到達目標 学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1 障害のある子どもの保育の形態や方法及び記録と評価の大切さを理解する 2 個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成の仕方を理解し、実際に作成する 3 障害のある子どもの生活や遊びへの援助方法について具体的に考える 4 保護者への支援、各機関との連携のあり方について理解する 							
授業計画	回	内容						
	1	障害児保育の方法と形態			障害児保育の方法 ・ 障害児保育の形態			
	2	基本的な生活習慣獲得の援助①			基本的な生活習慣 環境調整による支援 (グループワーク)			
	3	基本的な生活習慣獲得の援助②			社会性や協調性を育てる 行動への支援 (グループワーク)			
	4	個別の(教育)支援計画①			個別の(教育)支援計画と個別の指導計画			
	5	" ②			個別の指導計画の作成			
	6	" ③			個別の指導計画の活用と効果 (グループワーク)			
	7	" ④			クラスの指導計画と個別の指導計画 (グループワーク)			
	8	障害児保育の記録と評価①			記録と評価の考え方 ・ P D C A サイクルの活用			
	9	" ②			様々な記録の方法と活用 (グループワーク)			
	10	障害のある子への支援方法①			ムーブメント教育アセスメント			
	11	障害のある子への支援方法②			プログラムの立案と実践 (グループワーク)			
	12	障害のある子への支援方法③			プログラムの立案と実践 (グループワーク)			
	13	集団生活と遊びの援助			集団生活での援助 ・ 子ども同士のかかわり ・ 遊びの援助			
	14	保護者や家族への支援			保護者の感情 ・ 保護者支援の方法と実際			
15	地域の他機関との連携			特別支援教育への移行 ・ 保健医療機関 ・ 福祉施設				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1 障害のある子どもの保育の形態や方法及び記録と評価の大切さを理解することができたか 2 個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成の仕方を理解し、作成することができたか 3 障害のある子どもの生活や遊びへの援助について具体的に考えることができたか 4 保護者への支援、各機関との連携のあり方について理解することができたか 							
評価方法	授業態度 40% 期末試験 60%							
フィードバック 方法	授業内で扱った演習シートはその都度評価し、返却する							
アクティブ ラーニング	グループワーク・ロールプレイ・グループディスカッション							
教科書	「障害児保育ワークブック・インクルーシブ保育・教育をめざして」星山麻木 編 萌文書林 運動・遊び・学びを育てるムーブメント教育プログラム 100—幼児教育・保育、小学校体育、特別支援教育に向けて—小林芳文他編 大修館書店							
参考書	授業中に必要に応じて紹介する							
履修条件	「特別ニーズ保育・教育Ⅰ」を受講していること。 特に、グループワーク等の話し合い、実践場面では、話し合いの体制づくり・相互のやりとり等に積極的な姿勢で参加すること。							
授業外学習	事前学習：各授業で提示された課題（宿題）をやり遂げた上で授業に参加すること 事後学習：教科書の本文やノートを読み返した上で、演習の振り返りを行うこと							
オフィスアワー	第 12 番研究室 mail:office365 outlook							